

# 入賞者及び入賞作品

※肩書きは令和2年3月31日現在

## 1 最優秀賞 1点

### 《実施記録及び報告部門》

#### (1) 武蔵村山自然に学ぶ会

「狭山丘陵を未来へー希望をつなぐー 武蔵村山自然に学ぶ会の実践」

野山北・六道山公園内に自生するカタクリの生育状況を20年以上にわたり詳細に調べ、克明に記録した保全管理の記録である。生育状況調査にとどまらず、カタクリの増殖や谷戸におけるガマの効果的な伐採方法を検討するなど、各地における類似公園や里山の維持管理、保全活動の参考となる報告である。

## 2 優秀賞 4点

### 《論文部門》

#### (1) 姜明采 (公益財団法人日本ナショナルトラスト)

「震災記念堂を中心に計画された横網町公園の成立過程に関する研究ー関東大震災の惨禍を記念する慰霊空間の成立についてー」

膨大な資料をもとに、横網町公園内の各建築物の建設経緯や意匠の特徴を丁寧に分析し、公園の成立した一連の過程を明らかにするとともに、関係者や社会の要請を踏まえ、一体的な慰霊の場として成立した先駆的な事例であると論考した。

### 《実施記録及び報告部門》

#### (1) 日野植物研究グループ

「日野の水辺 多摩川・浅川・用水路の植物」

市域の広範囲にわたり、河川や用水路沿いの植物相を丹念に調査・同定し、水生植物を含む670種以上を正確にリスト化した貴重な記録である。2019年の台風19号による攪乱で、当該地域の植物やその生育地は多大な被害を受けたが、今後の調査において、回復状況を比較・分析するのに役立つ貴重な資料といえる。

### 《ボランティア・社会貢献活動部門》

#### (1) 下堰緑地の会

「地域に“こころ”と“からだ”のオアシスを！」

農業用水路跡地の下堰緑地を保全管理し、地域のオアシスとすることを目標に、希少種の保全や散策と憩いの空間創りに積極的に取り組み、防災や防犯、福祉面も絡めた地域活動として広がりつつある好事例と言える。

#### (2) 中央大学研究開発機構グリーンインフラ研究会

「長岡安平、井下清の志を継ぐ、地域が一体となった日本橋・坂本町公園の再生活動」

都心部の歴史ある小公園の再生に当たり、地域の関係者とのワークショップを通じて計画を練りあげた、合意形成過程の報告である。地域から様々な要望が出される中、最終的に歴史的な経緯を重視した再生整備の方向に絞り込んでいくプロセスは、同様の事例において参考となる貴重な報告である。

## 3 奨励賞 5点

### 《技術部門》

#### (1) 近藤義 (千葉大学 園芸学部 緑地環境学科)

「影を伝う～日陰ネットワークの形成による歩きやすい都市空間の提案～」

### 《ボランティア・社会貢献活動部門》

#### (1) デロイトトーマツグループ

「都心で季節を感じる～日比谷公園内で従業員参加型の植栽活動」

#### (2) 祖師谷公園樹木の会

「樹名板222枚のある公園」

#### (3) 《東京水辺ライン》下町河川リバーガイドボランティアの会

「水上バス《東京水辺ライン》における「下町河川リバーガイドボランティアの会 (略称: RGV)」

#### (4) 木村松夫 (赤塚公園友の会)

「赤塚公園サービスセンターとボランティア団体との協働の歴史創出」